

ゴードン財務相の解任で揺れる南アフリカ ～混乱がどのように展開するかに要注目～

楽読(ラクヨミ)

南アフリカのズマ大統領は3月30日、ゴードン財務相の解任をはじめとする内閣改造を発表しました。ゴードン氏は歳出抑制に注力するなど、市場からの信任が非常に厚かっただけに、解任の可能性が報じられた先週初以降、通貨ランドは売り圧力を浴びることとなり、一週間での下落率は対米ドル、対円とも7%強に達しました。

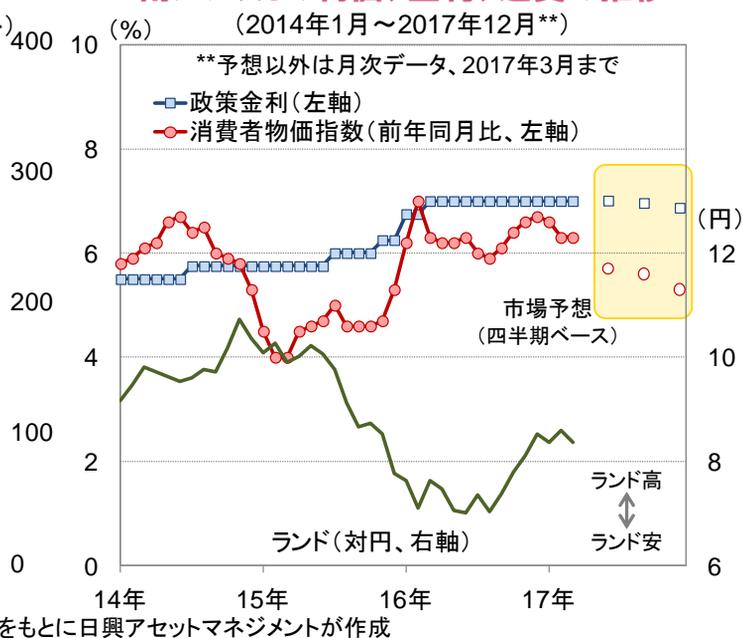
3月末時点の同国の格付(外貨建長期債務)は、S&Pとフィッチが投資適格級で最低のBBB-、ムーディーズは投資適格級で下から2番目のBaa2で、いずれも見通しが「ネガティブ(弱含み)」となっています。今回の内閣改造に伴い、市場では格下げ懸念が拡がりましたが、これまでの通貨下落で同懸念はかなり織り込まれたとみられます。ただし、内務相から財務相に横滑りしたギガバ氏がズマ大統領に近い人物とされることなどもあり、今後、改造内閣が人気取りに向けて拡張的な財政支出など、大衆迎合的な政策を採る可能性があります。さらに、ゴードン氏の解任には与党ANC(アフリカ民族会議)内などでも異論が強いとされ、今後、有力幹部や他の閣僚の辞任につながるなど、党内対立が激化する可能性や政治の先行き不透明感が強まる可能性も考えられます。

同国では、アパルトヘイト(人種隔離)政策の廃止で主導的な役割を果たしたANCが一党優位体制を長く維持してきました。しかし、同党議長(党首)や大統領を歴任したマンデラ氏が1999年に退いて以降、贈収賄や党内分裂が相次ぎ、現在、議長を務めるズマ氏についても、公金流用や汚職などの問題が発覚しています。加えて、高い失業率や近年の景気低迷などもあり、国民の間でANCや政権への不満が拡がっており、勢力退潮が鮮明なANCが2019年の総選挙で議席を大きく減らす可能性が高まっています。こうした中、ズマ氏の後継者を選ぶ今年12月の議長選挙を前にした今回の内閣改造には、政治的な思惑が絡んでいるとの見方があるだけに、今後の動きを注視する必要があります。なお、ANC内で、ズマ氏の早期退陣や改革路線への回帰を訴える声が拡がるような場合には、市場で先行きへの期待が高まることも考えられます。

南アフリカのGDPと国際商品市況の推移



南アフリカの物価、金利、通貨の推移



※上記は過去のものおよび予想であり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。